



職場の声を力に 諸要求実現の場を創る！ 対面で！

第25回国土交通省管理職ユニオン定期全国大会を 開催！

管理職ユニオン
国土交通省

No.362
2022 年
6月3日

【発行】
国土交通省管理職
ユニオン

【所在地】
東京都千代田区
霞ヶ関2-1-2 中央
合同庁舎2号館
TEL 03-3509-1138

【Email】
k-union@alpha.ocn.ne.jp

【ホームページ】
<http://wwwk-unionnetwork/>

管理職ユニオンは5月28日（土）、大阪市内において、この2年の書面開催やWeb開催から、3年ぶりに対面式での定期大会を開催しました。全国から16名の代議員と諸役員を含め、計38名の仲間が一堂に集まり、議案に対する意見の他、各支部の取り組みや職場実態の交流など議論を深め、新たな執行部と、向こう1年間の運動方針を決定しました。

勝ち取った要求に確信を！

管理職ユニオンが発足以降、今年で25回目の大会を迎えるにあたり亀井委員長は、①管理職の職責に相応しい処遇。②退職後の安定した普通の生活。③仕事に誇りがもてること。④国土交通省と公共事業が国民にとって不可欠の存在になること。という管理職ユニオンの「四つの目標」に基づき、運動を積み重ね、四半世紀の中で昇格改善や管理職特別勤務手当

の創設・改善、再任用の全地整への拡大とフルタイム採用、3年連続で地方整備局の増員など多くの要求を勝ち取ってきたことを強調しました。

管理職ユニオンは「おかしなことを、おかしいと言える」組織

笠井事務局長の議案提案後の質疑討論では、「統計局等の不正事案の事務次官訓示は、管理職員にその責任を押しつけ、これま

2022新役員よろしくお願ひします！

役 職	氏 名	支 部
中央執行委員長	亀井 稔	近畿
中央執行副委員長	原 俊彦	北陸
中央執行副委員長	安藤 一行	近畿
中央執行副委員長	小原 良一	近畿
中央執行副委員長	根本 悟	地理
事務局長	笠井 良彦	中部
事務局次長	安藤 浩照	中部
事務局次長	星野 豊	関東
中央執行委員	亀田 誠	東北
中央執行委員	南谷 達也	北陸
中央執行委員	小林 治	関東
中央執行委員	神村 草治	中部
中央執行委員	大枝 千晋	近畿
中央執行委員	末永 敦	中国
中央執行委員	石川 洋	四国
中央執行委員	興梠 逸郎	九州
中央執行委員	白井 宏樹	地理
会計監査	磯部 征史	関東
会計監査	大森 徹治	中部

間を増やす取り組みについても確認されました。

アンケートで得た職場の声を力に 諸要求の実現を！
大会のまとめでは、「アンケートでは管理職特有の仕事の問題・悩みや、処遇の格差が明らか、結果からニーズを捉えて運動する重要性」とりわけ「定年延長後の処遇確保・改善」が当面の課題、「ユニオンを強く大きくし、内部牽制機構の役割を果たす重要・必要性」について強調し、最後に亀井委員長の「団結がんばろう」で今後の取り組みを確認しました。

での定員削減の問題をすり替えている」、「定年延長の処遇問題」、「機械・電気通信の専門職種の処遇改善」、「新3×（休暇・給与・希望）」と職場とのギャップ」など、各代議員から23回に渡る発言があり、大会議案を補強しました。討論を通じ、「おかしな事をおかしいと言える組織が重要。それが労働組合」ということも改めて確認され、仲間を増やす取り組みについても確認されました。

大会宣言

《一部要約》

私たち国土交通省管理職ユニオンは5月28日に第25回定期全国大会を開催した。

本大会は、三年ぶりに新型コロナの緊急事態宣言・まん延防止措置が出ていない状況から対面による大会となった。全国各支部から選出された代議員16名、役員、傍聴者など22名が参加し、この一年の活動の総括と今後の運動方針について議論を行った。

昨年10月に発足した岸田内閣は、衆院で改憲勢力三分の二以上の議席を確保し、ウクライナ侵略を口実に、「九条で国は守れるのか」と、九条の破壊と改憲を一層推し進めようとする言動が増している。コロナ禍の問題では、まん延防止等重点措置を解除したが、危惧される感染リバウンドへの有効な対処方針は見えない。

「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」では、令和3年度第一次補正予算と併せて切れ目ない取組みで、防災・減災、国土強靱化が加速し、単年度主義の弊害は正や建設現場の生産性向上に向けて、国庫債務負担行為を設定すること等により、施工時期の平準化・施工の効率化を図ろうとし、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている観光、地域公共交通、航空の分野において、DXの推進や成長投資を通じた生産性向上、経営の持続可能性確保等に向けた取組を重点的に支援するなど職場は大きく変化してきている。

これらにより今年度の定員は防災・減災、国土強靱化の推進など体制強化に必要な定員が認められ、三年連続の純増となった。特に災害が頻発する中、その役割の期待が増している地方整備局等について昨年を上回る135名の純増となった。しかしながら、職場では増員の実感がなく、一人出張所や空きポストは年々増加しており、「災害対応の班体制が組めない」「災害時の連続勤務についても規制を作って欲しい」等の切実な声があり、職場は新型コロナウイルス感染対策も行わなければならない職場は限界にきている。

「管理職員緊急アンケート」を隔年で実施している管理職員等アンケートを補完するものとして、災害時の勤務体制、超勤上限規制、テレワーク、60歳以降の生活や経験者枠採用者等の部下職員の育成など項目を厳選して取り組んだ。「職場はギリギリの状況」であり、「職員の増員が必要」と回答が多く、管理職員の業務改善は「入札手続きや資料作成の見直しが必要」と多くの回答があった。アンケートを基に業務執行上での問題点の具体的な指摘、定年延長などによる将来の生活設計に対する不安などと部下育成やマネジメントの実例、各課題を分析し、職場議論の資料作成を行い、民主的な職場と国民の安全・安心を守る運動の基礎とすることを確認した。

管理職の処遇改善では、22年度の事務所課長、出張所長六級の級別定数増を勝ち取っており、さらに、国土地理院も含め事務所の府県単位機関への評価を認めさせる運動の強化などを確認した。

昨年6月4日、定年延長にかかる国家公務員法等の一部を改正する法律が成立した。年金制度の課題も含め、役職定年や定員問題、再任用短期勤務職員との混在など課題が山積みであり、処遇改善や働きがいのある業務を求める要求を強化することが確認された。

組織拡大・強化の運動では、

各支部の奮闘によって機関紙宣伝をはじめとした「目に見える職場活動」が継続されており、あらためて職場活動の重要性が確認された。組織実態は、残念ながら大会現勢の回復は達成しなかったが、これら活動や要求の前進から、新たな加入者も迎え入れており、活動と要求の前進に自信を持ち、1000名組織建設に向け、大きな組織拡大運動を展開することを大会参加者全員で確認した。以上、大会参加者から多くの意見、課題が出され、闘う方針が補強された。

私たちは、今後一年間運動を進める基本として、①管理職ユニオン「結成の目的」の四点の実現のため「組合を徹底的に民主的に運営する」「管理職員をはじめとする職員の意見を重視」し運動を進める。②既設インフラの維持管理に関する重大事故の発生や法の未整備等は、国民が関心を寄せる大きな課題であり「国民に理解され、喜ばれる」そして「家族からも誇りに思われる」業務執行を求める政策を基本とした運動を進める。③多くの管理職員は健康や精神に大きな負担を強いられている。定員削減を上回る増員の確保、パワハラ撲滅や超過勤務の上限規制の遵守などの「職場環境改善」運動を進める。④新型コロナウイルス感染症対策としてリモートによる業務が推進される一方、テレワーク実施要領では、リモート業務の推進や部下の管理という、いままでに無い新たな管理職の負担に対し改善を求めていく。⑤国民の期待に応えるため、引き続き監視、政策・提言活動を強化していく。⑥「職場を基礎に」が基本であり、出来るだけ多くの仲間に行動参加を促し産別・国民的課題と結びついた課題実現を目指す。⑦「誰でも55歳までに6級昇格し、多くの管理職員等の7級昇格実現」「差別・情実人事のない昇任の流れの確立」「生活との調和のとれた人事異動」「誰でも生き活きと生き甲斐の持てる60歳以降の働き方の確立」等の職場要求の実現を求めていく。⑧要求前進の鍵は「組織の前進」であり、組織拡大を図る必要がある。そのため職場内外に「目に見える運動」を通して支持を拡げ、管理職組合の拡大を図っていく。⑨国家公務員唯一の管理職組合として、その責任と誇りを持ちユニオン活動を展開することを確認した。

以上の課題を前進させるため、私たち管理職ユニオンは「政策」を手に職場で働く管理職員一人一人の要求や悩みを聞き、職場要求を実現させる運動を組合員、未加入者、一般職員の多くの仲間と進め、また、共通する産別・国民的課題と結びつけ、多くの仲間と共に課題実現を目指し、この一年間運動を展開し実践していくことを確認した。

私たち管理職ユニオンは、管理職員の先頭に立ってこれらの運動を進めることをあらためて決意すると共に、ユニオン未加入の皆さんに、ユニオンへの加入を心から訴える。

右、宣言する。

2022年5月28日

国土交通省管理職ユニオン第25回定期全国大会

大会参加者集合写真

撮影時のみマスクを外しています。

